

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p>	II	<p>認証評価基準を満たす水準で教育課程を改善し、令和 4 年度に受審した大学機関別認証評価において、「大学評価基準を構成する 27 の基準をすべて満たしている」と評価された。</p>	<p>全学及び各学位課程の教育改善過程に学生を参加させる仕組について検討を開始したが、ロードマップの策定には至らなかった。</p>
戦略 1	自己評価		
<p>全学的な教学マネジメント体制を整備して、組織的で質の高い教育課程を全学、各学部・研究科、個別授業の各レベルで点検・改善しながら展開する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①令和 4 年度に受審する認証評価への対応を通じて、各学部(学科)・研究科における教育課程上の課題を改善する。※1</p> <p>②教学マネジメント委員会において、全学及び各学位課程の教育改善過程に学生を参加させる仕組(仮称：学生教育委員会)について検討を開始するとともに、ロードマップを策定する。【⑥-1-②】</p>		<p>①「令和 5 年度 自己点検・評価実施要領」を策定し、教育課程の点検・改善を行う。</p> <p>②全学及び各学位課程の教育改善過程に学生を参加させる仕組(仮称：学生教育委員会)を整備する。【⑥-1-②】</p>	

※1.第 3 期中期目標期間(4 年目終了時)の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		自己評価	成果等
目標 1 【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い高等教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。	II	学務情報システムの「DP 達成状況システム」により学修成果を可視化し、学生、教員にフィードバックしている。	課題 / 今後の取組等 学生の主体的学修や教員の指導力改善を支援するために IR データの活用方法について具体的な検討が必要である。
戦略 2 教学 IR の推進により教育・学修成果の可視化を進め、IR データの分析結果を活用することによって学生の主体的学修や教員の指導力改善を支援する。	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
①学生ポートフォリオは、本学の学務情報システム上は「DP 達成状況チャート」に相当するものであり、これをベースとして学修成果を可視化する仕組みを構築する。そのために、 ・学生の主体的学びの軌跡や成果を表現するために追加すべき情報は何か ・各学部の「ここにしかない学び」の成果を可視化するためにどうすればよいか について検討を行い、追加すべき教育・学修成果の指標や項目のリストを作成する。【下線部分⑥-1-①】 ②現行の「DP 達成状況チャート」の目的、仕組み (DP 達成状況がどのように可視化されているのか、その点検評価と改訂がなぜ重要なのか等)、活用方法や学生教育上の必要性などをわかりやすく解説した活用マニュアルを作成し、これを使った FD 研修を実施する。学務情報システム「DP 達成状況チャート」を用いた学生指導を行っている教員が令和 5 年度末には半数以上になることを目標とする。 ③教学 IR の取組みとして、教育・学修成果についての次の指標・項目リスト (例) が毎年度自動的に更新され可視化される仕組みを構築する。		①学修者主体の教育に向けた教育改善の状況を的確に反映・可視化するため、授業評価アンケートの仕組みを抜本的に見直し、改善案を策定する。【⑥-1-①】 ②大学院生のトランスファラブルスキルを可視化するシステムを導入する (令和 6 年度より稼働)。 ③授業改善・学生指導に係る全学 FD 研修計画を策定し、令和 5 年度後期より実施する。※2	

自己評価 【目標 1～V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
 【戦略 1～IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

(学年終了時 GPA、副専攻プログラム履修状況、副専攻プログラム履修完了者数、自学習時間、満足度等授業評価結果、DP 達成状況チャートを活用した学生指導実施状況、教員の教育力、TOEIC-IP 得点、ギャップターム活動状況、学年インターンシップ参加学生数、短期留学経験者数、長期留学経験者数、外国人学生の在籍数、休学者数、退学者数、学生教員比率、就職率、進学率)

④令和 3 年度実行計画②⑥に基づき、教学マネジメント委員会（教育改善小委員会）において、教員の教育力向上プログラム（令和 4～5 年度の 2 年計画）を策定する。

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p>	II	<p>令和 6 年度からの新たな全学共通教育(全学基礎教育)における「ユニバーサル科目群」の必修科目として「SDGs 入門(新規開講)」を位置付けるよう設計し、教学マネジメント委員会に提示した。</p> <p>博士後期課程科目「Sustainability science and SDGs」「Science for a sustainable society and future Earth」、博士前期・修士課程科目「持続性科学と SDGs」を開講し、計 109 名が受講した。また、「Sustainability science and SDGs」については個々の専門分野の教員や学生に聴講可能にして実施した。</p>	<p>各学部・研究科の教育課程に SDGs の観点 が反映されるよう検討する必要がある。 SDGs に関する学生・教職員意識調査を実施したが、令和 4 年度の無回答者は、学生 70.9%、教職員 67.4%となり、令和 3 年度比 10%減が達成できていない。実施時期の見直し等、回答率増加への対応を検討する。</p>
<p>戦略 3</p> <p>SDGs の観点からカリキュラムを見直すと共に、授業科目と SDGs との関連付けを明確化しシラバスに記載するなど、授業内容の SDGs への関連について学生の理解を深めると共に、SDGs に対する意識を向上させる。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①各学部・研究科の強みや特色を反映した新たな教育目標、DP・CP・AP(令和 6 年度入学者から適用、教育ビジョン-目標 1-戦略 5-実行計画①)を策定する際、SDGs の観点をどのように反映させるかについて、教学マネジメント委員会で協議し、その結果を共通のフォーマットに取りまとめる。【⑤-1-①②、⑥-1-①】</p> <p>②令和 5 年度より実施する新たな全学共通科目において SDGs 関連科目の充実を図るとともに、専門教育との接続も図りつつ SDGs に関する体系的学修を促進するため(教育ビジョン-目標 1-戦略 4-実行計画④)、全学共通教育小委員会に検討チームを設け具体的な計画(授業内容や学年配置等)を策定する。当該計画の中には次の 2 つの検討を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通教育及び専門教育を SDGs の観点から分類・体系化した「全授業 SDGs マップ(仮題)」を作成し、令和 5 年度中にはホームページで公表できるようにすること。 ・SDGs やカーボンニュートラルをテーマとした新たな副専攻プログ 		<p>①令和 6 年度開始の全学基礎教育においてユニバーサル科目群の必修科目として「SDGs 入門」を位置付けるよう規程等を整備する。【⑥-2-①、独自-1-①】</p> <p>②専門教育において、各学部で SDGs 関連科目となる学部共通科目・オムニバス科目を令和 5 年度に設計し、令和 6 年度よりカリキュラムに加える。【独自-1-①】</p> <p>③学内における SDGs に対する意識を向上させるため、SDGs に関する学生・教職員意識調査を実施し、無回答者を昨年度より減少させる(令和 4 年度無回答者：学生 70.9%、教職員 67.4%)。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

ラムの開講可能性を検討すること。

【⑥-2-①、独自-1-①②】

③S-SPRING（大学院博士後期課程）において、「Sustainability science and SDGs」「Science for a sustainable society and future Earth」（英語科目）を開講、これを同育成生以外にも聴講可能となるように展開する。また博士前期・修士課程科目（日本語）「持続性科学とSDGs」を開講する。これらにより大学院生のSDGsに対する意識を向上させる。【独自-1-①】

④学内におけるSDGに対する意識を向上させるため、SDGsに関する学生・教職員意識調査を実施し、無回答者を昨年度より10%減少させる（令和3年度無回答者：学生60.3%、教職員71.5%）。

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p>	II	<p>全学共通教育を令和 6 年度からスタートさせるため、「島大 STEAM 科目群」、「ユニバーサル科目群」、「地域創生科目群」、「教養育成科目群」を置く全学基礎教育の基本設計を構築した。</p>	<p>新たな全学共通教育を実施する体制を整備できなかった。</p>
<p>戦略 4</p> <p>全学共通教育において、幅広い学問領域をもつ総合大学としての特質を活かした学際的・国際的な教育内容を充実させ、学生の知的好奇心・社会的行動力の活性化を図ると共に、数理・データサイエンス、批判的思考力、デザイン力、アントレプレナーシップなど現代社会の求める新たなリテラシーを全学生が身につけられるよう全学的に STEAM 教育を推進する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>令和 5 年度より新たな全学共通教育をスタートさせるため、①～④により、その準備を完成させる。</p> <p>①新たな全学共通教育の基盤となる「島大 STEAM (仮称)」の枠組について、数理・データサイエンス、批判的思考力、デザイン力、アントレプレナーシップなどを取り入れて構築する。【⑥-2-①】</p> <p>②「島大 STEAM (仮称)」の構築にあたっては、令和 3 年度に策定された「島根県版高等教育のグランドデザイン」を踏まえ、島根大学における STEAM 教育を定義する。(地域・社会連携ビジョン-目標 1-戦略 1 と関連) 【①-2-①】</p> <p>③「島大 STEAM (仮称)」は、全学共通教育における STEAM 教育の流れが各学部の専門教育における STEAM 関連科目に有機的に接続</p>		<p>①令和 6 年度開始の全学基礎教育に「島大 STEAM 科目群」、「ユニバーサル科目群」、「地域創生科目群」、「教養育成科目群」を置くよう規程等を整備する。【①-2-①、⑥-2-①②、独自-1-①②】</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

することに加え、現在、国において推進を図っている高校段階までの STEAM 教育とも接続するように構築する。

④新たな全学共通科目の教育内容として、STEAM 教育以外にも学際的・国際的な内容、SDGs 関連科目の充実を図り、学生の知的好奇心・探究心を活性化させ、現代社会や地域社会の未来を切り開く知のリーダー的役割を担うに相応しい新たなリテラシーを身に付けられるよう設計する。【⑥-2-①、独自-1-①②】

⑤新たな全学共通教育の構築にあたっては、思考法の転換（批判的思考・論理的思考、水平的思考の柔軟な活用）を促す学び、プロジェクト型学修や産業界との協働による社会実装的な学び、高度な教育 DX を活用した学修効果の高まる学び、遠隔教育の活用による国内外の大学等との交流教育など、知的好奇心や探究心が社会的行動力の活性化につながるような教育方法を計画的に取り入れる。【⑥-2-②】

⑥島大支援基金より「学生ベンチャースタートアップ支援奨励金」として学生によるスタートアップを支援する。

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
目標 1		成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【地域総合大学として、その特性を活かした質の高い高等教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p>		<p>各学部の強みや特色を反映した DP を令和 6 年度入学者から適用するため、各学部の現在の DP を分析し、7 つの DP を抽出した共通フォーマットとして「7 つの全学 DP (案)」を作成した。</p>	<p>令和 4 年度に実施できなかった各学部・研究科の特色や強みを反映させた教育目標及び 3 ポリシーを令和 6 年度入学者から適用できるように再構築・公表する。</p> <p>各学部・研究科において、特色や強みの見える化や「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)の構築に向けて引き続き検討する。</p>
<p>【戦略 5】</p> <p>各学部・研究科において、それぞれの特色や強みを見える化すると共に、意欲ある学生を惹き付ける「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を構築し、学生の知的探究心・社会的実践力の向上を図る。</p>			
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①各学部・研究科の強みや特色を反映した新たな教育目標、DP・CP・AP を令和 6 年度入学者から適用するため、それらの素案を各学部・研究科で再構築するとともに、教学マネジメント委員会で協議し、その結果を共通のフォーマットに取りまとめる。【⑤-1-①②、⑥-1-①】</p> <p>②教育目標の再構築及びその教育課程への反映にあたっては、次の資料等の総合的な分析を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「島根県版高等教育のグランドデザイン」で示され高等教育の将来像、地域社会が学生に求める能力や役割(地域・社会連携ビジョン-目標 1-戦略 1 との関連) ・これまでの課題解決型学修等の教育成果の分析から導かれる育成すべき資質・能力 <p>【①-2-①、⑤-1-①②、⑥-1-①】</p> <p>③各学部・研究科の「ここにしかない学び」を、それぞれのステークホルダーにわかりやすく示すため、「ここがちがう、ここにしかない、島根大学〇〇学部(研究科)の学び(仮題)」を作成し、令和 5 年度の各学生募集(令和 6 年度入学者募集用)パンフレットや Web に反</p>		<p>①全学 DP・CP・AP (案)の枠組みに沿って、各学部の特色や強みを反映させた教育目標及び 3 ポリシーを再構築・公表するとともに、令和 6 年度入学者から適用できるよう規程等を整備する。【①-2-①、⑤-1-①②、⑥-1-①】</p>	

自己評価 【目標 1～V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
 【戦略 1～IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

映させる。【⑥-1-①】

- ④特に学部の特徴や強みを高校生及びその保護者に向けて「見える化」するにあたっては、当該学部での学び（教育上の強みや特色）の成果が、卒業後の進路やキャリア形成にどのようにつながったかについて重点を置き、エビデンス（教学 IR データ）を用いて明示する。

【⑥-1-①】

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】</p> <p>幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保証すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」(独自性のある教育プログラム)を提供する。</p>	II	<p>卒業者数に占める本学の学部生が大学院へ進学した割合(内部進学率)は、18.9%となった。(令和3年度19.2%)</p>	<p>各学部において大学院への進学率向上に向けた分析が行われたものの、内部進学者数等の目標値を設定した学部は2学部に留まった。</p> <p>大学院進学動向の分析を行い、内部進学者数など数値目標の設定した上で、大学院課程を見据えた学士課程教育に取り組む必要がある。</p>
<p>戦略 6</p> <p>学部教育と大学院課程教育の接続を強めることにより、学部学生の大学院への進学意欲を高めると共に、大学院課程を見据えた学士課程教育を展開する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①各学部・研究科は、第 3 期中期目標期間中の大学院進学者について、学部在学中の学修状況やキャリア形成志向の分析などを行った上で、進学率向上についての課題を明らかにする。その上で、第 4 期中期目標期間中の大学院進学率(内部からの進学者数)及び他大学等からの進学者数に関する目標値を設定し、その実現のための具体的方策を立案し実施する。</p>		<p>①大学院進学動向の分析結果(内部進学者数など数値目標の設定やその達成度を含む)を教学会議において報告するとともに、大学院進学を促すカリキュラム上の工夫・改善等について併せて報告する。※2、3</p>	

10

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目 ※3.認証評価の結果を踏まえている項目

自己評価 【目標 1～V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
 【戦略 1～IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
目標 2		成果等	課題 / 今後の取組等
<p>専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。</p>			
<p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p>		<p>II</p> <p>へるん入試における定員、募集単位、入試方法の改訂を行い、特別選抜による入学定員割合を令和 5 年度入試 (令和 4 年度実施) 35.3%、令和 6 年度入試 (令和 5 年度実施) 37.4% に拡充した。 令和 5 年度に設置した材料エネルギー学部について、6 月に選抜方法等の概要を確定・公表し、入試広報を展開した。その結果、特別選抜の合格者に占める県内出身者比率は全学で最も高い値となった (54%)。</p>	<p>特別選抜による入学定員割合は目標である 40% に届いていない。入試実施状況の分析結果を踏まえた入試改訂計画を策定する。 へるん入試で入学した学生の「学びのタネ」の成長を促す教育を行うとともに、その成長度を計る評価指標を策定する必要がある。</p>
<p>II</p> <p>総合型選抜「へるん入試」を中心とした特別選抜の方法を改訂すると共に、当該入試による入学定員を拡充する。また入学者の「学びのタネ」の発芽・成長を促し、開花・結実へと向かうよう支援する柔軟な教育システムを構築する。</p>			
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①令和 3 年度実行計画①②の検討結果を踏まえ、令和 4 年度及び令和 5 年度に実施するへるん入試について 2 年度間を通じた枠組み (定員、募集単位、入試方法等) の改訂計画を、7 月までにとりまとめる (特別入試による入学定員を全入学定員の 40% に拡充する目標を含む)。また令和 5 年度設置予定の新学部の入試について、その実施内容・方法の概要を 6 月中に確定・公表し、志願者数の目標値の設定、ターゲットの絞込みを行った上で、入試広報を展開する。【⑤-2-②】</p> <p>②各学部における全入試の実施状況や入学後の学修状況について教学 IR データを用いた総合的な検証を行い、①や次項③との関連も勘案しつつ、第 4 期中期目標期間後半の入学者受入の全体像について、入試改訂計画を立てる。【⑤-1-②、⑤-2-①】</p> <p>③令和 4 年度の高校進学者 (高等学校新学習指導要領 1 期生) を受け入れる令和 7 年度入試 (令和 6 年度実施) について、その概要を年内に公表する (2 年前予告)。特に学部学科の枠を超えて学びの翼を広げる「島根大学クロス教育 (新教育プラン)」により、地域課題の解決や地域の未来を拓く STEAM 人材を育成する育成・総合型選抜</p>		<p>①特別選抜の改訂についてさらに具体化し、令和 7 年度入試の概要を 7 月、12 月に公表する。【⑤-1-①②、⑤-2-①②】</p> <p>②「私の“学びのタネ”は、今」をテーマに、へるん入試 1~3 期生までの集い (スプラウトルーム拡大版) を開催する。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

I（新へるん入試）を新たに策定する。【⑤-1-②、⑤-2-①】

④へるん入学者 1 期生（2 年生）2 期生（1 年生）のみを対象とした「特別教育コース／へるんsproutコース（仮称）」を全学及び各学部において開設し、7 割以上の学生の登録を前期中に完了させる。また各学生の「“学びのタネ”の今」についてインタビューを実施し、学びのタネの捉え方、入試における評価方法、入学後の評価方法などについて『へるん入試検証レポート～学びのタネの捉え方、育て方』を作成し、上述③「新へるん入試」の設計に活用する。【⑤-2-①】

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
目標 2		成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】</p> <p>多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p>	自己評価 II	<p>島根県教育委員会との連携を深め、令和 5 年度へるん入試による県内からの入学者数及び県内出身者比率は 81 人、28.2% (令和 4 年度 67 人、23.1%) となり、目標を達成した。</p> <p>また、入学者における県内出身者比率は 26.7% (令和 4 年度入試 23.1%) となった。</p>	<p>高大連携・接続のあり方についての具体的な方法を検討する必要がある。</p>
<p>【戦略 2】</p> <p>島根県教育委員会と連携し、大学進学を志す高校生を増加させるため高大接続事業を推進すると共に、地元大学での学びに高い意欲をもち、多様な「学びのタネ」を有する島根県出身の入学者を増加させる。</p>	自己評価 II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①令和 3 年度に県教委との連絡調整会議において共有された 5 つの重要テーマのうち、「高大連携による育成型入試の展開・充実」について次の a.b に取り組む。</p> <p>a.令和 4 年度より施行される高等学校新学習指導要領において「総合的な探求の時間」や「情報 I」が必修化されたことを踏まえ、その第 1 期生を大学に受け入れるにあたっての高大連携・接続のあり方について島根県教育委員会と協議し、当該第 1 期生が高校 2 年生となる令和 5 年度に開始する接続教育プラン (仮称) を策定する。</p> <p>b.「特別教育コース/へるんsprautコース (仮称/教育ビジョン-目標 2-戦略 1-④参照)」のうち島根県出身者について「「学びのタネ」の今」のインタビュー結果について島根県教育委員会と協議するとともに、学びのタネの捉え方、評価方法などの分析結果である『へるん入試検証レポート～学びのタネの捉え方、育て方』についても意見交換し、それらの結果を「新へるん入試」の検討 (特に高校生や高校教員に明確に伝わる「学びのタネ」の再定義) に活用できるように取りまとめる。</p> <p>②地元大学での学びに高い意欲をもち、多様な「学びのタネ」を有する島根県出身の入学者を引き続き増加させるため、へるん入試による県内からの入学者数の目標を 80 人とする (令和 3 年度 60 人、令和 4 年度 67 人)。</p>		<p>①地元大学への進学を中心に、大学進学への意欲を高めるため、島根県教育委員会と連携し「探究フェスタ」を開催する。特に理系学部への進学者増加を図るため、島根県教育委員会と連携し、高校 1 年生を対象とした「理系進学セミナー」を開催する。</p> <p>②へるん入試による県内からの入学者数の目標を 85 人とする (令和 3 年度 60 人、令和 4 年度 67 人、令和 5 年度 81 人)。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 2	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p>	II	令和 6 年度より全学共通教育 (全学基礎教育) 及び専門教育に加え、新たに 5 種類の教育プログラム (10 単位、20 単位、30 単位) からなる「島大クロス教育」を設置する構想案を作成した。	
<p>戦略 3 自己の特質を活かそうとする学生の意欲的な学びを支援するため、主専攻 (分野)・副専攻 (分野) によるクロス教育、学部の壁を超えた副専攻プログラム、オンライン授業等の活用によるダブルメジャー、メジャー・マイナープログラムなど、幅広い選択肢を持った柔軟な教育システムを構築する。</p>	III		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①令和 6 年度入学者から新教育プラン「島大クロス教育 (仮称)」を実施するため、「クロス教育 (知の越境力育成)」の定義をはじめ、基本的な履修の枠組み、各学部の専門教育における展開や履修方法等について、次の a~c のパターンを踏まえて実施計画を策定する。 【④-2-①②】 a.学部専門教育をベースとした主専攻×副専攻 各学部において育成しようとするある領域 (学科等) の「専門性」を他の教育プログラム (当該学部内の他学科等の専門性) とクロスさせることによって強みを形成する取組 (達成水準: 令和 5 年度各学部 1 件、令和 8 年度各学部 3 件以上) b.学部を超えた副専攻プログラムとのクロス ある領域 (学科等) の「専門性」を当該学部以外の教育プログラム (他学部や全学共通教育の副専攻プログラム等) とクロスさせることによって強みを形成する取組 (達成水準: 令和 5 年度 3 件、令和 8 年度 10 件) c.他学部や他大学の授業 (オンラインを含む) を活用してより広範で柔軟な学際的履修を可能とする取組で、ダブルメジャーやメジャー・マイナーによる強みを形成しようとする取組 (令和 8 年度 3 件)</p>		<p>①令和 6 年度入学者より新たに 5 種類の教育プログラム (10 単位、20 単位、30 単位) からなる「島大クロス教育」を開始するため、規程等を整備する。【④-2-①②】</p>	

②①の実施計画を策定するため、中期目標・計画⑤-1、教育ビジョン-目標 1-戦略 4 及び 5 を踏まえるとともに、教学マネジメント委員会において全学としての方向性を確認・調整しつつ、学部における教育課程（要卒単位の構成）や専門教育科目数の厳選について協議し、素案を作成する。【④-2-①②、⑤-1-①②】

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 2	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】</p> <p>多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。</p>	II	<p>オンライン授業の高度化に関する FD を 1 回実施した。</p> <p>また、国内外の大学・高等専門学校との単位互換等の連携は 7 件継続して実施した。</p>	<p>教育 DX の高度化のための教材や FD 研修の開発に取り組む必要がある。</p> <p>単位互換等の新規連携プログラムについて、各学部・研究科において検討を進める。</p>
戦略 4	自己評価		
<p>学びの多様性を高めるため教育 DX を推進し、国内外の大学・高等専門学校と連携して、リモート教育を活用した単位互換等の連携プログラムを開発・実施する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①令和 2 年度及び令和 3 年度に実施された授業（遠隔授業を含む）において、授業方法に高度な DX を取り入れ教育成果を上げた授業や学生からの授業評価の高かった授業について、その要因を分析し、「高度な教育 DX による授業改善の手引きと事例集（試作版）」を作成するとともに、オンライン授業の高度化に関する FD を年度内に 2 回実施する。【⑥-2-②】</p> <p>②国内外の大学や高専との連携教育プログラム（単位互換制度を活用するものを中心とする）を構築する。また大学教育センターは、各学部・研究科や全学共通教育における当該取組について、その内容、実施方法、実施状況等について把握するとともに、教育改善小委員会において情報共有・協議し、プログラムの質保証や改善に取り組む。【⑫-1 海外大学との間の遠隔授業】</p> <p>③教育 DX の推進をはじめ、学修者中心の高度な大学教育を企画・提案、推進するため「教育高度化推進センター」の新設計画を取りまとめる。（経営戦略ビジョン-目標 3-戦略 2 関連）</p>		<p>①令和 6 年度に開始予定の新たな全学基礎教育及び専門教育の中で教育 DX を推進するため、関連する FD 研修を 2 回実施する（教育ビジョン目標 1-戦略 2-実行計画③に含める）。</p> <p>②リモート教育を活用した連携プログラムの導入候補を選定し、必要な連携協定等を結んで実施準備体制を整える【⑥-2-②】。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等	
目標 2 【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。	オンラインの学修プラットフォームによるバーチャル・キャンパス「もう一つの島根大学」について、仮想空間ソフトによる 2 次元のバーチャル空間を創出する構想案を作成した。	既存コンテンツを発展的に活用するプランを策定したが、試供やその評価には至らなかった。	
戦略 5 バーチャル・キャンパスとして「もう一つの島根大学」を立ち上げ、定評や特色のある「名物講義」、英語による講座、リカレント教育に活用できる講座等の各種講座を制作してホームページ上で公開し、学生だけではなく地域のステークホルダーにも質の高い大学教育を提供する。			
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
①令和 3 年度実行計画②の実績を基盤として、オンラインの学修プラットフォーム「もう一つの島根大学」によるバーチャル・キャンパス創出に取組むため、a. 高校生向けの教材動画サイト、b. 大学生向けの教材動画サイト、c. 社会人向けのリカレント動画サイトの 3 つを設計し、各サイトに試供動画をアップして評価をフィードバックしてもらおう。併せて、視聴者がマイページ (自分の学修経歴の蓄積) を持ち継続学修を促進する仕組みや、学修者同士が交流できるサイトの構築について検討し、バーチャル・キャンパスの全体像 (総合プラン) を策定する。 ② (再掲 教育ビジョン-目標 2-戦略 4-実行計画③) 教育 DX の推進をはじめ、学修者中心の高度な大学教育を企画・提案、推進するため「教育高度化推進センター」の新設計画を取りまとめる (経営戦略ビジョン-目標 3-戦略 2 関連)。		①令和 4 年度に策定したバーチャル・キャンパス (もう一つの島根大学) 案を教育改善小委員会に提示し、令和 7 年度にスタートできるよう同小委員会に WG を設け具体的な検討を開始する。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 3	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】</p> <p>高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p>	II	<p>認証評価基準を満たす水準で教育課程を改善し、令和 4 年度に受審した大学機関別認証評価において、「大学評価基準を構成する 27 の基準をすべて満たしている」と評価された。</p> <p>大学院のトランスファラブルスキルを定義するために、各研究科の DP との対応について整理した。</p>	各研究科における 3 つのポリシー (DP・CP・AP) の再構築に向けた全学的な方向性の確認には至らなかった。
戦略 1	自己評価		
<p>これからの時代の要請に応えられる高度な学術的専門性を身につけ、国内外の産業界の需要に応えられる高度専門職業人を育成するため、大学院のカリキュラムを学位プログラムの視点から点検・再構築する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①「島根大学教学マネジメント方針」に基づき、全研究科に教学マネジメント体制を構築する。また令和 4 年度に受審する認証評価への対応を通じて、各研究科における教育課程上の課題を把握するとともに、教学マネジメント委員会においてその改善過程を検証する。【⑦-1-②】</p> <p>②高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人や知識集約型社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成するため、各研究科における 3 つのポリシー (DP・CP・AP) の再構築を行うため、教学マネジメント委員会において全学的な方向性を確認する。【⑦-1-①】</p>		<p>①各研究科において三つの方針の再検討を実施し、再構築に向けた計画 (ロードマップ) を作成する。【⑦-1-①】</p> <p>②「島根大学教学マネジメント方針」に基づき、全研究科で教学マネジメント体制が構築されていることが明文化されている。【⑦-1-②】</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
<p>専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。</p>			
	自己評価		
目標 3	II	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】</p> <p>高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p>		<p>人間社会科学研究科及び自然科学研究科において、修士論文のテーマにかかる研究成果発表会を地域・産業界等の参画を得て試行・実施した。</p> <p>大学院教育における社会実装に資する科目に係る履修者数調査の結果は以下のとおりであり、履修者数は 1.2 倍増加した。</p> <p>○PBL 科目 令和 3 年度：10 科目 22 名 令和 4 年度：11 科目 28 名</p> <p>○産業界との協働科目 令和 3 年度：5 科目 7 名 令和 4 年度：5 科目 8 名</p>	<p>第 4 期中期目標期間中に履修者数が 1.5 倍以上となることを目標とした履修促進計画（ロードマップ）の作成には至らなかった。</p>
戦略 2	II		
<p>地域社会の発展に資する実践的能力を備えた高度専門職業人を育成し、学生のキャリアパスの多様化を図るため、産業界との共同授業、実務家教員による授業、PBL 型の授業、多様なインターシップ体験などを充実させ、大学院での学びの社会実装を一層推進する。</p>			
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①大学院教育における社会実装を推進するため、人間社会科学研究科（臨床心理学専攻を除く）及び自然科学研究科において現在行われている「地域との協働授業」「産業界との協働授業」、「PBL 型の授業」、「大学院生を対象とした多様なインターンシップ」について、令和 3 年度及び令和 4 年度の履修者数を調査する。このうち令和 3 年度実績値（第 3 期中期目標期間末）を基準値として、第 4 期中期目標期間中にその 1.5 倍以上となることを目標とした履修促進計画（ロードマップ）を作成する。【⑦-2-①】</p> <p>②各研究科・専攻において、修士論文（専門職学位においては研究成果報告書）テーマにかかる研究成果発表会等を地域・産業界等の参画を得て開催するよう、それぞれにおいて令和 4 年度中に実施要領を定めた上、令和 5 年度より実施し、地域・産業界等の参画状況や出された意見等について公表できるようにする。【⑦-2-②】</p>		<p>①人間社会科学研究科（臨床心理学専攻を除く）及び自然科学研究科における当該戦略に記載された授業科目の履修者目標値（令和 3 年度実績の 1.5 倍以上）を再度確認し、到達状況（履修者数）を教学会議において報告する。【⑦-2-①】</p> <p>②人間社会科学研究科（臨床心理学専攻を除く）及び自然科学研究科は、修士論文等のテーマに係る研究成果発表会等の状況及び地域との連携教育の課題と成果について、教学会議において報告する。【⑦-2-②】</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 3	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】</p> <p>高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p>	II	海外留学・研修として実渡航した大学院生は 15 名、オンラインによる海外研修または国際会議における研究発表を行った大学院生は 10 名となり、全大学院生の 3.4% (令和 3 年度 4%) であった。	国際性を涵養するため、大学院生の海外留学・研修を推進できるよう強力に取り組むとともに、ウェブ会議を含め、国際会議での発表機会をより多くの大学院生に与える必要がある。
<p>戦略 3</p> <p>国際性を涵養するため、海外留学・研修、国際会議における研究発表やダブルディグリー等の多様なプログラムを提供する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、大学院生の海外留学・研修または国際会議における研究発表をオンライン参加を含めて全大学院生の 8% (令和 3 年度実績 4% の倍増) とする。【⑫-1-①】</p> <p>②新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつ、ダブルディグリープログラムの履修者数を 3 名とし、延べ 6 名 (令和 3 年度実績 3 名) とする。【⑫-1-②】</p>		<p>①国際学会への参加や研究発表、並びに海外留学・研修の機会(オンラインによる参加を含む)を計画し、全大学院生の 20% に海外体験をさせる。【⑫-1-①】</p> <p>②医学系研究科は寧夏医科大学と、自然科学研究科は東北師範大学とのダブルディグリープログラムにおいて令和 6 年度履修する留学生を確保するとともに、自然科学研究科については、令和 5 年度前期にナレスワン大学(タイ)、キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)とのダブルディグリープログラムを新規に設置し、7 名の履修者を確保する。【⑫-1-②】</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
	自己評価	令和 4 年度実行計画 検証
目標 3	II	成果等
<p>【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】</p> <p>高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3 つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。</p>		<p>島根県の企業等における大学院教育プログラムへのリカレント教育のニーズに係る職域、履修形態、方法等について各研究科が持っている調査等のデータを取りまとめた。</p> <p>研究科における社会人リカレントのための履修証明プログラムとして新たなプログラム（農林業支援就農支援リカレント教育）を含む 5 つのプログラムを実施し、合計 156 名が履修した（令和 4 年度 36 名）。</p>
戦略 4	II	
<p>オンラインによる遠隔授業等も活用し、実践的な履修証明プログラムによる高度専門職業人材に対応するリカレント教育を展開する。</p>		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】
<p>①島根県の企業等における大学院教育プログラムへのリカレント教育のニーズについて、職域、履修形態、方法等について各研究科が持っている調査等のデータを大学教育センターで取りまとめ、全学的にどのようなシステムを構築すれば、履修者増加・履修促進に向かうことができるのかについて、教学マネジメント委員会において分析・整理を行う。</p> <p>②本学の強みを活かし、県内外から DX 等を活用して履修者を集めることのできるプログラムを構築するため、オープンバッジなど、近年、リカレントやリスキリングにおいて注目されている学びやスキルの蓄積プログラムについて調査研究し、企画書を取りまとめる。</p>		<p>①既存の履修証明プログラムの履修者数を増やすとともに、各研究科において社会人を対象とした実践的な履修プログラム（オンデマンド）案を新たに作成する。</p>

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 4	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】 コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。</p>	II	<p>英語による授業科目を段階的に増加させるため、「授業の英語化推進基準」を制定した。 外国語で行われている授業科目数 学部 105 科目、大学院 135 科目（令和 5 年度目標値 学部 154 科目、大学院 181 科目） 複数学部の学生が留学生と交流する企画として「インド人留学生の出身大学との SDGs セミナー（オンライン）」と「交換留学生と話そう（対面）」を開催し、それぞれ約 40 名が参加した。 外国人教員数 35 名（令和 5 年度目標値 40 名）</p>	<p>新学部の設置、へるん入試による入学者増等の状況変化を踏まえ、「外国語教育グランドデザイン（素案）」の点検を行い、必要な修正を行ったが、より踏み込んだ実施案を策定するには至らなかった。 「グローバル・コモンズ」として日常的に交流できるスペースが確保できなかった。 外国語教育の強化や交流企画の開催等、一定の進捗が見られるが、学内のグローバル化に向けて一層の取組強化が必要である。</p>
<p>戦略 1 共通教育及び専門教育を通じて外国語教育を強化すると共に、英語による授業科目の増加、英語による日常的コミュニケーション環境の整備、外国人教員の増加など、学内教育環境のグローバル化を推進する。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①外国語教育グランドデザイン（素案）を教学会議、教学マネジメント委員会（全学共通教育小委員会）に諮って意見調整するとともに、令和 6 年度よりスタートする新教育システム（島大クロス教育）において、全学共通教育・専門教育を通じた外国語能力向上にどう位置づけるかについて、より踏み込んだ実施案を策定する（令和 5 年度中制度設計完成）。【⑥-2-①】</p> <p>②各部局・研究科に、「グローバル・コモンズ」等のスペースを設けて、部局間・研究科間を超えた日常的な教職員と留学生の交流を図る。</p> <p>③定期的な交流企画を学内で公開して開催するなど、部局間・研究科間を超えた交流を強化する。</p> <p>④英語による授業科目を段階的に増加させるため、「授業の英語化推進基準及びロードマップ（仮称）」を国際センターと外国語教育センターで策定する。</p> <p>⑤令和 3 年度末 32 名を踏まえ、引き続き令和 4 年度末までに 36 名の外国人教員を配置する。</p>		<p>①「外国語教育のグランドデザイン」において語学力・国際力の強化・改善を示す目標値を設定した上で、新たな全学基礎教育（ユニバーサル科目群）を構築し、係る規程等を整備する。</p> <p>②松江キャンパスに 5 か所の日常的な留学生との交流スペース（グローバル・コモンズ）を設け、学内環境のグローバル化を推進する。※4</p> <p>③令和 4 年度末 35 名を踏まえ、全学の外国人教員の割合（5.2%）を下回る学部は、令和 8 年度までの目標値を設定し、全学として令和 5 年度末までに 40 名の外国人教員を配置する。※4</p>	

※4.第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
目標 4		成果等	課題 / 今後の取組等
<p>専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。</p>			
<p>【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】 コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。</p>		<p>教育 DX を推進し、オックスフォード大学教員による遠隔授業を新たに 2 科目開講（計 8 名受講）するとともに、オンラインカフェを中国に関する内容で 5 回開催（80 名参加）、COIL 授業を 4 大学（インド、中国、台湾、コスタリカ）との間で実施した。留学ウィーク及びグローバル月間を開催し、参加者数はそれぞれ 674 名（51%増）、1,292 名（22%増）となり、令和 3 年度に比して増加した。</p>	<p>留学生比率は学部生が 2.0%（0.2%増）、大学院生が 14.4%（増減なし）となり、令和 4 年度の目標値を達成することができなかった。 海外に派遣した学生数（学部・大学院）もコロナ禍の影響を受けた昨年度実績（4 名）から 102 名に増加したものの、学生に占める割合は低く、更なる取組の強化が必要である。</p>
<p>【戦略 2】 教育 DX の推進による海外大学との遠隔授業の受講、オンラインカフェや COIL 等による協定校とのバーチャルな学生交流等と併せ、留学生と日本人学生の直接的な交流機会の拡充にも努め、海外留学・研修の意識を高め、海外に派遣する学生を増加させる。</p>			
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①オックスフォード大学教員による遠隔授業を新たに 2 科目開講する。</p> <p>②外国語教育センターでは、海外へ派遣する学生を増加させるため、新規授業「グローバル・キャリア」を開設する他、「グローバルアクティビティー B（海外研修）」及び北京大学教員と連携し、5 科目のオンライン授業を実施し、各科目 10 名以上の受講者を確保する。【12-1-①】</p> <p>③国際センターでは、海外へ派遣する学生を増加させるため、オンラインカフェ（月 1 回）、COIL 授業（4 大学以上）、語学研修（3 大学以上）、課題解決型研修（20 名以上）を実施する。【12-1-①】</p> <p>④国際センターでは、外国語教育センター、学部と連携して留学ウィーク及びグローバル月間を開催し、令和 3 年度実績（446 人うち日本人学生 327 人、1,062 人うち日本人学生 588 人）のそれぞれ 20% 以上増の学生を参加させ、外国人留学生と日本人学生の直接的な交流機会を拡充する。【12-1-①】</p> <p>⑤国際センターは、JASSO 主催や企業等主催の留学生向け大学説明会に積極的に参加（年間 5 回以上）し、学生数に占める外国人留学生の受入割合を昨年度より学部学生 0.5%増、大学院生 2%増とする。【12-1-②】</p>		<p>①オックスフォード大学教員による遠隔授業を 5 科目開講する。</p> <p>②外国語教育センターは、継続的に、北京大学教員と連携したオンライン授業（2 科目）やコスタリカ及び台湾の大学と連携した独自の COIL 授業を実施し、各授業 10 名以上の受講者を確保する。【12-1-①】</p> <p>③国際センターは、全学の海外研修プログラムを SDGs や英語高度化プログラム等、目的別・派遣国別に整理し、各学部及び国際センターは計 10 件以上の海外研修（オンライン海外研修を含む）を実施する。また、その他の協定校への海外派遣や国際学会における発表等の増加と併せ、439 名（全学生の 7.5%）の日本人学生を海外に派遣する。【12-1-①】</p> <p>④国際センターは、外国語教育センター、各学部・研究科と連携して留学ウィーク及びグローバル月間を開催し、授業の一部とタイアップできるイベント等を立案して令和 4 年度実績を上回る学生（2,000 名以上）を参加させる【12-1-①】※4</p> <p>⑤国際センター、外国語教育センター及び関係学部は、令和 5 年度からスタートした帝京大学の研修プログラムを軌道に乗せるとともに、令和 5 年度前期中に欧米を中心とした短期（交換）留学生用学習プログラムを策定し、学部留学生 134 名、大学院留学生 127 名を受け入れる。【12-1-②】※4</p> <p>⑥「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ（第二次提言）」を踏まえ、グローバル化推進本部は、（1）コロナ後の留学生派遣・受入れ、（2）留学生の卒業後の活躍に向けた環境整備、（3）教育の国際化の推進の 3 項目について、同提言の 2033 年目標と照らして本学に即した具体的方策を整理し、第 4 期中期目標期間中に達成する国際戦略を策定する。</p>	

※4.第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

教育ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。			
目標 4	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】 コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。	II	ダブルディグリープログラム締結に向けて、サンパウロ大学（ブラジル）とオンラインミーティングを実施し、意見交換を行った。また、コチ工科大学（インド）と協議を進めている他、新たにナレスワン大学及びタマサート大学（タイ）とのダブルディグリープログラムの検討を開始した。	想定していた大学との 3+1 プログラムを締結することができなかったが、寧夏大学を含む中国、韓国、台湾の協定大学に対して同プログラム導入の可能性について調査を行っており、引き続き検討を進める。
戦略 3	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
海外の協定大学との遠隔授業を活用し、学士課程、大学院課程におけるダブルディグリープログラム、または、ジョイントディグリープログラムを新たに設置する。	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
①ブラジル・サンパウロ大学と法文学部との教員交流を進め、ダブルディグリープログラム締結に向けた具体的な協議を進める。【⑫-1-③】 ②ミンナン師範大学との 3+1 プログラムを締結し、募集を開始する。寧夏大学との 3+1 プログラムについても締結に向けた協議を進める。【⑫-1-③】 ③インド、インドネシアの協定校、教員を採用した大学などとの間で、ダブルディグリープログラムへ向けて令和 3 年度に開始した検討を進めるとともに、近年留学生の派遣受入の交流実績の多い協定校であるタイのタマサート大学とのダブルディグリープログラムについて新たに検討を始める。【⑫-1-③】		①自然科学研究科は、令和 5 年度中にナレスワン大学(タイ) 並びにキングモンクット工科大学トンプリ校(タイ)とのダブルディグリープログラムを新規に設置し、令和 6 年度に学生募集を開始する。また、人間社会科学研究科は、今後 3 年以内に設置可能なダブルディグリープログラムを計画する。【⑫-1-③】	